

インゲン（トンネル早熟）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トンネル早熟												
主な作業	施肥	は種				収穫						土壌消毒

技術体系

1 作型の特徴

この作型は、露地栽培が出回るまでに、主たる収穫を終わらせる栽培である。

2 適応地域

平坦地域

3 栽培条件

（1）温度

生育は温度が高温になるほど、花芽分化数や開花数が増加するが30℃以上になると落花、落莢等を起こす。低温については豆類の中では比較的強く気温13℃で生育を停止する。開花収穫数に影響を及ぼす気温は昼間18℃、夜間13℃である。

（2）光

インゲンの光飽和点は、2～5万ルクスである。

（3）土壌条件

排水良好で表土の深い肥沃な植壤土で最も良い生育を示す。酸性に特に弱くpH6～7が適度である。

土壌水分については乾湿の害が特にあり土壌水分が充分でないと開花数が減少し収量も非常に低くなる。開花期に乾燥が続くと結実に悪影響を及ぼす。逆に加湿状態では生育が悪くなり停水すると落葉を生じ収量は激減する。

また連作をおこなうと生育が悪くなり収量が減少し病害やセンチュウ等の発生が多発するので避ける。

4 施設装備

（1）トンネル

トンネルを用い温度の確保に努める。早まきの場合は2重トンネルが必要である。

5 経営目標

（1）収量 1.5 t / 10a

（2）投下労働時間 1280時間

（3）所得率 60%

（4）経営規模 6a

（家族労力2人の場合）

栽培技術

1 品種

「ベストクロップキセラ」

60日で収穫できる中性丸莢種。葉は小さく、莢数多いため多収が望める。2番果の開花が早いため長期栽培向きである。花数が多く肥大が遅いため一斉収穫も可能である。莢離れは良く色は濃い。

2 本圃準備

（1）畦立て

本圃は土壌が肥沃で排水・保水性が良く耕土が深く日当たり良好な圃場を選定する。また連作障害対策のため、新規圃場に作付を行う。

135cm畦幅の高畦を作る。雑草防止と地温確保のためにグリーンマルチを利用する。灌水チューブを設置し、マルチ被覆をする場合は土壌水分が適湿状態で行う。

播種1ヶ月以上前からマルチ・トンネル被覆を行っておき地温の確保に努める。

（2）施肥

肥料は有機質肥料か緩効性肥料を用いる。また追肥時期は開花時から着果時期が最も肥料吸収が大きいため開花前5日頃より行う。

施肥量 (kg / 10a)

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基 肥	13	20	13	
追 肥	10	10	10	
全 量	23	30	23	

3 播種

畦幅1. 5～2m、条間40cm、株間35cm
1穴2～3粒播く。

立枯病対策として、①30cm以上の高畦を行う。

②薬剤を1株当たり1～2g植え穴処理する。

③発芽後は加湿状態にしないようにし、移植苗をポリポットに用意しておく。

4 播種後の管理

(1) 温度管理

昼間温度適温23～26℃

30℃以上では、花粉の稔性が悪くなり落花・落莢・曲がり莢の原因となる。40℃以上で生育障害が発生する。

夜間温度適温15～17℃

13℃以下の低夜温では花がだらだら咲き花粉の稔性が悪くなる。落花・落莢・曲がり莢の原因となる。10℃以下で生育を停止する。

最低温度15℃を確保する。

地温適温22～23℃

根毛の伸長最低温度は13～14℃。8℃で枯死するため15℃を確保する。

15℃以下30℃以上にならないようにトンネルのこまめな管理が必要である。

(1) 換気・灌水・誘引・摘葉

4月上旬以降遅霜がなくなってからトンネルを除去する。

灌水は開花期頃より定期的に行う。4～5日おきに天候を見ながら3～5mmを灌水する。晴天日の午前中に行う。

誘引は必ず行い、光線の確保と養分の転流がスムーズに行われるようにする。

混み合う葉や病葉・老化葉は早めに摘葉を行い株の内部に日光を当てる。1度に多くの摘葉を行うと草勢が低下するため行わない。

5 収穫

開花後14～20日の若莢(12～14cm)を中心に収穫する。こまめに収穫を行い株に負担がかからないようにする。